

開会の挨拶：中島 秀敏 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官

1 はじめに

本日は、寒冷の折り、本セミナーにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私、文部科学省 地震・防災研究課 地震調査研究企画官 中島 と申します。よろしく申し上げます。

本日の「地震に関するセミナー ― 地震に備え、防災意識と地域防災力の向上を図る ― 」の開催に当たり、主催者のひとりとしてご挨拶申し上げます。

2 地震セミナーの意義

本日のセミナーは、文部科学省と和歌山県とが共同で主催しております。

西日本地域では、ご存知のとおり、南海トラフの地震（東海～東南海～南海地震）の影響が大きく、紀伊半島および四国のほぼ全域で確率が高いと評価されています。ここ和歌山市（和歌山県）も震度6弱以上になる可能性が高く、南海トラフの地震の影響度が支配的であります。

本日、紹介する地震の発生確率を示した地図では、この和歌山県の多くが赤色、すなわち、地震発生確率が高い区分に位置付けられており、地震による大きな揺れに見舞われることを踏まえ、起きることを前提にした実効性ある対策が必要です。また、児童生徒の学習・生活の場である公立学校施設は、災害時には児童生徒を保護するとともに、地域の方々の応急避難場所としての役割を果たすものであります。平素より耐震診断を行い、耐震化を行うことが必要です。

地震に備えた自助・共助の必要性については、本日の講師の先生やパネルディスカッションから御説明いただけることと思います。

そもそも、本地震セミナーの目的になりますが、「地震調査研究推進本部 地震調査委員会の評価の結果など地震調査研究の最新の成果を地域の防災対策関係者や一般の方々に わかりやすく提供し、防災意識の高揚や具体的な防災対策に有機的に結びつける。」ことを目指したものです。本年は、全国 12 箇所で開催することになっており、本日のセミナーは、第8回にあたります。

地震セミナーは、政府の特別の機関である地震調査研究推進本部の「総合基本施策」を踏まえ、文部科学省が進めている普及啓発事業であります。

3 地震調査研究推進本部

この「地震調査研究推進本部」は、政府の特別の機関として設置されたもので、文部科学大臣が本部長を務めております。

設置の契機は、昨日で12年を迎えますが、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の甚大な被害と地震防災対策に関する多くの課題を踏まえ、同年7月、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、議員立法で制定された「地震防災対策特別措置法」にあります。

当時としては、地震に関する調査研究の成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達され、また、活用される体制になっていなかったという課題意識があり、行政施策に直結すべき地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、同措置法に基づき当時、総理府の科学技術庁に設置（現・文部科学省に設置）されました。

4 おわりに

本日のセミナーによって、和歌山県に影響を及ぼす地震に関する知識が更に深まり、そのことが今後の防災活動の取組に活かされていくことを期待するものであります。

最後になりましたが、本日のセミナー開催に当たりまして、和歌山県をはじめとする関係者の方々に様々な形でご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

本日、ご出席の皆様の積極的なご参画により、セミナーが所期の目的を達成することを祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

挨拶の挨拶: 小山 陽 和歌山県総務部危機管理局総合防災課課長

本日は、お忙しい中にもかかわらず、「地震に関するセミナー」に多数ご参加頂きまして、厚く御礼申し上げます。

本セミナーの開催にあたり、主催者として一言ご挨拶申し上げます。

和歌山県においては、歴史的にもこれまで幾度となく、「東南海・南海地震」等の大災害によって多大な被害を被ってきました。

先日も「東南海・南海地震」と同じ海溝型地震である千島列島沖を震源とするM8.2の巨大地震が発生し、本県にも津波注意報が発表されました。

幸いにも、特に被害がありませんでしたが、震源から遠く離れた遠地津波であったことにより、県民に対する広報活動のあり方等、新たな課題も見つかったところ です。

さて、今月 10 日に文部科学省地震調査研究推進本部が「東南海地震」の発生確率の見直しを発表しましたが、それによると、今後 30 年以内の発生確率が従来の「60%」から、「60%～70%」に引き上げられるなど、今また、その発生の危険性は高まりつつあります。

県では、昨年 5 月に、平成 16 年度から 17 年度の 2 カ年をかけて実施した地震被害想定調査の結果を公表し、その結果を踏まえ、「地震防災対策アクションプログラム」の見直しを進めているところです。

今後は、見直し後のアクションプログラム等の内容を踏まえつつ、効果的に防災対策のハード整備を進めるだけでなく、このようなセミナーや防災講座などを通じ、県民の皆様への防災意識の啓発に努めるとともに、自主防災組織の育成により、地域社会における防災力の向上を図ってまいりたいと考えています。

今回のセミナーでは、「地域防災力の向上」を一つのテーマに取り上げ、NPO 法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之（くりた のぶゆき）氏を講師に迎え基調講演をいただくことにしています。

その後、元NHK解説委員で、NPO 法人防災情報機構理事長の伊藤和明（いとう かずあき）先生をコーディネーターに迎え、地域の現場で防災活動に取り組まれている、玉置成夫（たまき しげお）さんや間瀬トシ子（ませ としこ）さんにもご参加いただき、地域における防災活動等について、活発な意見交換をいただくこととなっていますので、皆様にとっても、意義のあるセミナーになるのではないかと

と考えています。

結びに、阪神・淡路大震災の発生から年が経過した昨日、神戸市をはじめ各地域で犠牲になられた方々の御冥福を祈る式典が開催されています。

私達は、過去に経験した幾多の震災害から学んだ教訓を生かしつつ、今後発生するであろう大災害に対して、備えなければなりません。

本セミナーを機会に、地域社会でどのような防災活動を行うべきか、いま一度、ご家庭や地域の方々と共にお考えいただくことを祈念申し上げ、開催のあいさつとさせていただきます。